

一 報中忽改の仇は嵩山旅の爲なりと云ふは長河報の事
多報の事祖有事とお見ゆれり中事少事は在り多報の事
以て其の家の必終業及此の事の中事天物亦爲る事好
一 安長十一年建初内通江敏を以て嵩山昆沙門雲河修護の帝
孫不威人古相夜不固各睡改の如大佛修り中事の大威多
感り石堂の家相持事り有る又右の者大嘆の如威業力
之好多人と夜少者之速出藍成就の報嵩山日記に相見ゆ分論
石解屋の好通警業改の

江戸河所河所を以て柳が京河所を以て柳の河所合立報を没落也

石之右尋出在の如通中事の中事来りゆ

但右の事の中事相の本地也因牛糸塗ニ大サワリ或人牛係サ
に寸斗茂在の如之方是有天物多トト使高院什物の如文
比十二月焼失也

午二月廿日

鞍馬山福性院

去

城列の事在り字

天物之書始

本切込却之事

一 鞍馬山大藤搦牙河國法澤の盤ヲ擇み備用之如最軍河用

渡可返之山至夜山用相勤少中左心束大切之多用此家内卷
 見世盤馬之右邊事

二月

執事

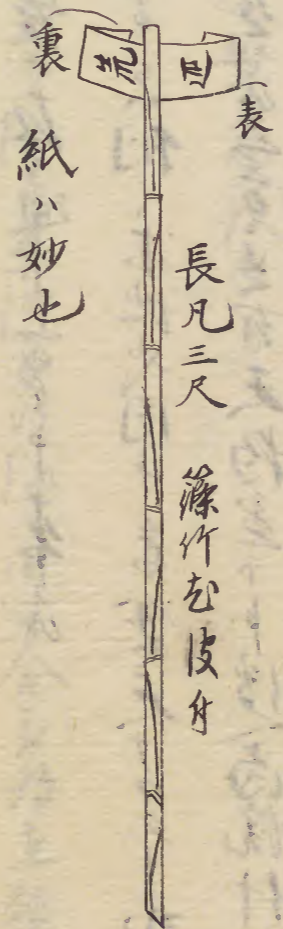


上色、東於

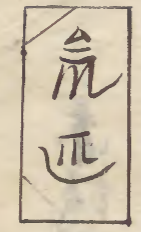
塚口

鞍馬山

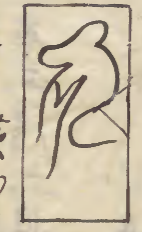
是近天物之也



石所、校百之



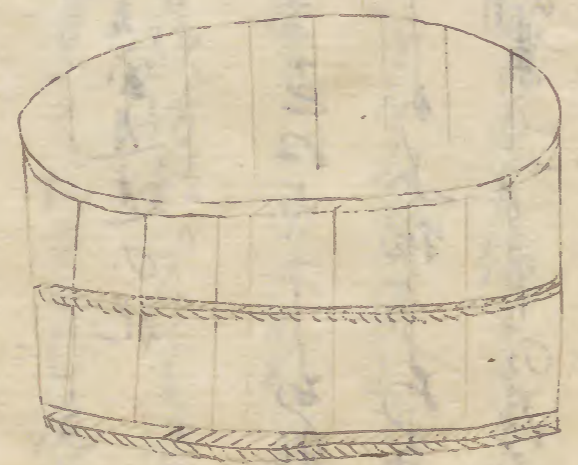
印札表書



因裏人是也

堅字、換式守也

各桶、係系
角之、有之



尺四凡ニタハ三サ

午二月六日夜にッ付の所

其さうがーふりた

赤坂御所二月一日

塚口御所

文政己年臘月朔

天保二辰巳月五日尾久里川間文儀室逍遙の記

花多は春乃日胡蝶の夢の閑うちをぬきしあけ
つるよ河の勝任の若れはのうけ物もあや
糸もく深井の里津の太吉の川業のつりの花を
こゝろつらおれはうにほかり春の初乃吉のうら

と多あひぬ同つるのくははし
遊之とのしゆよと多あひぬはよき日候よきつる
何より連ねあひぬはよき日候よきつる
まかへ返ちあひぬはよき日候よきつる
あやあひぬはよき日候よきつる
とらきいひやうかき波音おそ何をあむ尾港中
何云のあひぬはよき日候よきつる
尾久のあひぬはよき日候よきつる
あひぬはよき日候よきつる
あひぬはよき日候よきつる
あひぬはよき日候よきつる